

書評

[評者]
中島貴子
聖マリアンナ医大教授・臨床腫瘍学



マイヤース 腹部放射線診断学 発生学的・解剖学的アプローチ 太田光泰，幡多政治 監訳

●B5 頁400 2017年1月
定価：本体 14,000円＋税
[ISBN978-4-260-02521-8]医学書院刊

久しぶりに“マイヤース”のページをゆっくりめくった。といっても日本語版である。あの世界的名著を日本語で読めることにまず驚き、さらに監訳を担当したのは、尊敬してやまない総合診療のわが師匠たちであった。感動に包まれてめくる本著は、原著第6版となり、最新でありながら、腹部臓器・疾患における普遍的な原則を放射線学という視点から理解するというスタンスを貫いていた。

本著の最大の特徴は「腔」の描写であろう。「腔」とその区画を理解すれば、腹部疾患の限局と進展を理解できる。そしてその深い理解は、実際の医療現場では、迅速で効率的な病態の診断に繋がる。実際に私が本著に出合ったのも、研修医が終わったばかり、足柄上病院(神奈川県)で救急診療に追われる中、真夜中に一人で腹痛患者のCT画像を診断しなければいけない場面で、「腔」と「膜」を理解できていない自分に落胆し、探し当てた本であった。当時はそれを英語で読み下さなければならず、私にとっては大変な労力を要したもののだが、それはそれで良い思い出。しかしこの日本

語版を読むと、やはり日本人としてはよりしっくりくるし、研修医や救急医などが効率的に勉強するには最適な書籍になっていると思う。

もう一つの本著の特徴は、豊富な画像と、シンプルだからこそ読者の理解を深めるイラスト、そして解剖写真(横断面)までもが挿入されていることであろう。普段、腹腔内を実見することのできない内科医や放射線科医にとって、これらの写真やイラストは、腹腔という3次元構造の理解を助けてくれる。そして、水の流れを追うことによってその3次元構造の理解がたやすくなるように、写真やイラストに沿って日本語による流れるような解説がなされている。

初期研修の時期には基本的知識の修得に、後期研修医が独り立ちする時期には心細い診療の相伴に、専門医をめざす時期には知識や経験の整理に、そして各領域の専門医にとっては、より深い腹部疾患の理解のための振り返りに……全ての医療従事者に自信をもってお勧めする良著です。